

外国為替予想レポート(週刊)
Techni Hedge Forex : 10 Nov. 2008 (Mon)
Tanaka Currency Risk Management, vof.

先週は殆ど全ての通貨ペアに中期巻き返しのシグナルが週足に点灯した。
 中期調整局面に転じたという認識が強まる見込み。

今週の為替市場予測、ハイライト：

ドル円・長期予想：ドル長期弱気中。	2
ドル円・中期予想：中期買いシグナル点灯。	2
ドル円・短期予想：短期弱気中。	3
ユーロ円・長期予想：長期弱気中。	4
ユーロ円・中期予想：中期買いシグナル点灯。	5
ユーロ円・短期予想：短期弱気中。	5
ユーロドル・長期予想：長期弱気中。	6
ユーロドル・中期予想：中期買いシグナル点灯。	6
ユーロドル・短期予想：短期強気転換。	7
ドル・インデックス：中期売りシグナル点灯。	8
豪ドル円：長期弱気中・中期買いシグナル点灯。	9
豪ドル/米ドル予想：長期弱気中。中期買いシグナル点灯。	10
ポンド円：長期弱気中、中期買いシグナル点灯。	11
ポンド米ドル：中期買いシグナル点灯。	12
カナダ円：中期買いシグナル点灯。	13
米ドルカナダドル：中期売りシグナル点灯。	14
ドルスイス：長期強気中。中期強気中。	15
スイス円予想：長期弱気中・中期買いシグナル点灯。	15
ユーロスイス予想：中期買いシグナル点灯。	16
ユーロポンド：中期横ばい中。	16

ドル円: 98.25 (98.50) 先週末 NY 為替市場終値

[為替市場焦点] (本レポでは昨日とは先週金曜日、本日とは週明け月曜日をさします)

先週は3週間ぶりにボラティリティーが大幅に低下。
 ここまでの週間レンジ幅は直近では最低水準に近いものだった。

とりあえず大暴落の調整が始まる見込みで、
 通貨市場では殆どに巻き返しの中期シグナルが先週点灯した。

すなわち；(以下全て週足中期シグナル)

- 豪ドル円に買いシグナル点灯。
- 豪ドル米ドルに買いシグナル点灯。
- カナダ円に買いシグナル点灯。
- スイス円に買いシグナル点灯。
- ユーロスイスに買いシグナル点灯。
- ユーロ円に買いシグナル点灯。
- ユーロドルに買いシグナル点灯。

ポンド円に買いシグナル点灯。
 ポンドドルに買いシグナル点灯。
 ドルカナダに売りシグナル点灯。
 ドル・インデックスに売りシグナル点灯。
 ドル円に買いシグナル点灯。

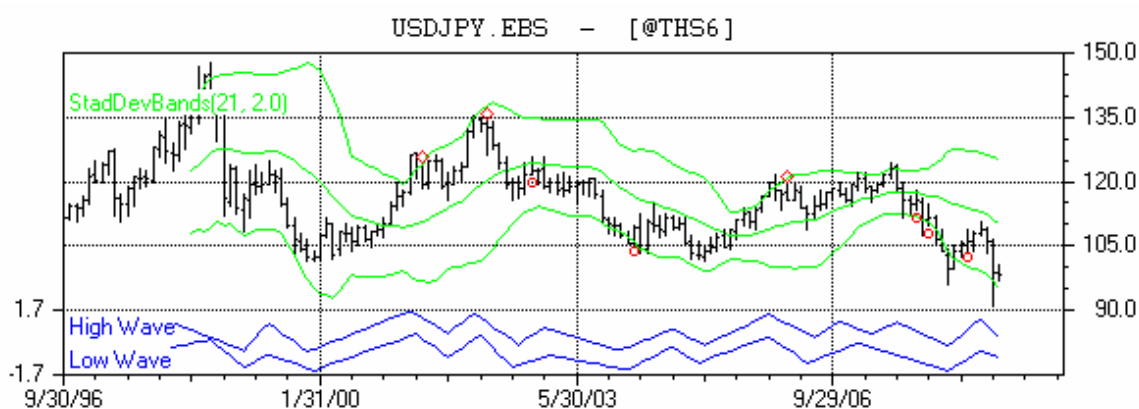
なお殆ど全ての主要国株式指数にも中期買いシグナルが点灯した。

以上のシグナルは数週間から4週間程度有効と予想され、この間調整乱高下となる見通しである。

(なお、ブレイクアウトはストップに対する抜けを告知しており、予想レンジに対するものではありません。ご注意ください。本レポートでは逆張りの売買シグナルと、順張りの売買ストップでポジションを管理しております。チャートには逆張りの売買シグナルのみが表示されています)

ドル円・長期予想：ドル長期弱気中。

(下図ドル円の長期月足売買シグナル：)



10月はシグナル点灯無し。売りストップ101.63を11円近く下回る大暴落で弱気を再確認した。2008年9月104.52より長期弱気中。

ドル円10月足は実に16円近いレンジを記録。大暴落の後、大乱高下となりレンジの中ほどで終了した。

10月大暴落は、98年に発生した通貨危機以来最大のものである。95年以来の最安値を更新した。

ドル円は9月に長期弱気に転じたばかりであり、この先かなり長い長期弱気の残存周期を残す。

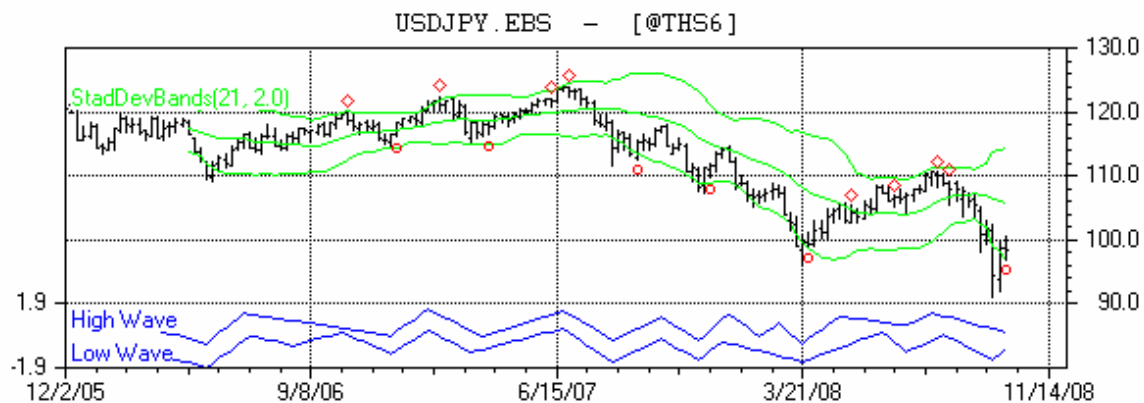
従って長期強気に転換できるのはかなり先のことになる。年内の本格長期反騰は無理。長ければ来年の半ばまでは反転できない。

11月の買いストップは106.94。(売りストップは90.05)

標準予想レンジは 94.86 ~ 100.09。
 陽線予想レンジは 97.69 ~ 102.92。
 陰線予想レンジは 94.07 ~ 99.30。

ドル円・中期予想：中期買いシグナル点灯。

(下図ドル円中期週足売買シグナル：)



先週は買いシグナル点灯した。ブレークアウトなし。

8月22日週110.08より弱気中だったが11月7日週98.25にて強気転換。

3週間前に記録的な暴落となったドル円は、2週間前に暴騰して暴落幅をかなり取り返した。

先週は高値水準で狭いレンジにて横ばい。十字足だった。

中期買いシグナルが点灯。

ここから必ずしも力強い強気が始まるとは考えていない。

長期弱気相場に於ける中期調整局面となろう。

今後は94円から103円程度の大乱高下レンジになると見込む。

今週の売りストップは92.62。(買いストップは103.88)

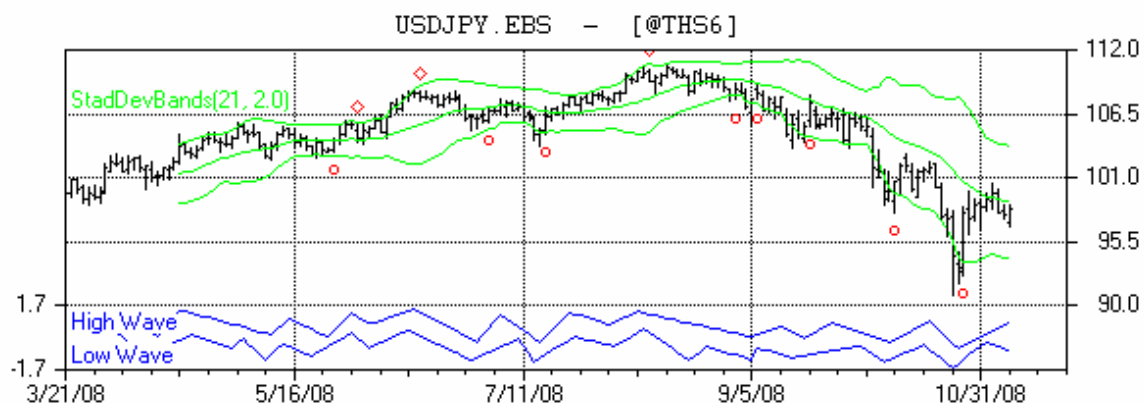
標準予想レンジは 95.70 ~ 99.36。

陽線予想レンジは 97.46 ~ 101.12。

陰線予想レンジは 95.37 ~ 99.03。

ドル円・短期予想：短期弱気中。

(下図ドル円短期日足売買シグナル：)



10月31日96.45より弱気中。

昨日のドル円は予想通り海外市場では下げ止まり反転した。

安値目標97円に到達直後、ここが底入れとなり反騰に転じた。

押しに必要な最低の日柄は両端込みで一般的に4日間であるが、一応先週金曜日で4日を経過した。

反騰傾向で終了したために今週は上昇試行に転じるかもしれない。

しかしながら、周期的観点からは十分に押し切っていない為に、今週も下げ続けるというシナ

リオもありうる。

これ以上下げる場合でも94円後半程度では下げ止まるとの見通し。
その近辺で底固くなり、徐々に中期底入れ感が浮上してくる見通しである。
その結果大型のレンジ乱高下となろう。

長期的観点からはここで長期底入れするのは困難で、年内は乱高下が基調、時折急落に見舞われる可能性が続くだろう。

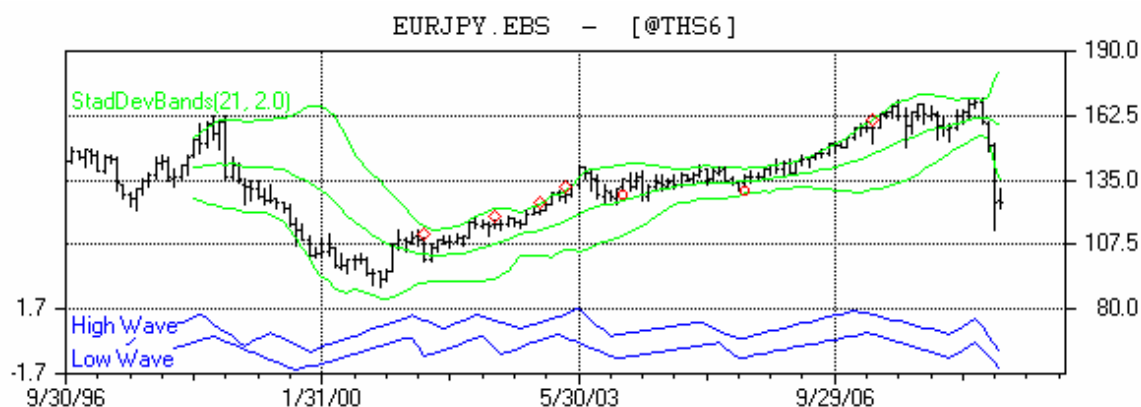
長期上昇に転じることが出来るのは、早くても来年初、通常なら来年半ばである。

ユーロ円: 124.97 (125.42) 週末 NY 為替市場終値

[概観] 週足に中期買いシグナルが点灯した。中期調整局面になるとの見通し。

ユーロ円・長期予想：長期弱気中。

(下図ユーロ円長期月足売買シグナル：)



10月はシグナル点灯なし。記録的な大暴落となり売りストップ139.01を貫通し、長期弱気を再確認した。

2008年8月162.73より長期弱気中。

10月はユーロ導入後史上最大の大暴落だったが、3G先進国通貨としてはおよそ考えられない、37円近いレンジ(113.62~150.58)を形成。これは常識では考えられないボラティリティーであり、事態の深刻さを物語る。

かつて、ユーロ導入前にマルク円などを利用した仮想合成価格が162円から僅か2年間で90円に到達したという経験がある。

現在の市況をテクニヘッジ独自の数値分析で当時と比較してみたが、1999年の10月から11月にかけての状況と数値的には一致しているとの結論を得た。

それを根拠に推測すると、ユーロ円は今後半年から1年以内に96円近辺まで下落して大底を形成すると予想する。

2008年8月に162.73より弱気中。先週引値は124.97だった。

11月の買いストップは151.84。(売りストップは99.00)

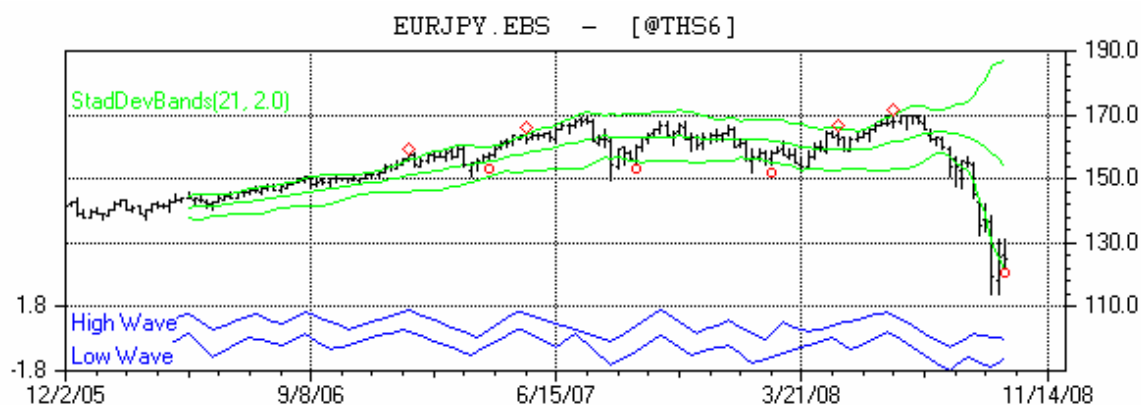
標準予想レンジは119.46~127.68。

陽線予想レンジは124.05~132.27。

陰線予想レンジは118.56~126.78。

ユーロ円・中期予想：中期買いシグナル点灯。

(下図ユーロ円中期週足売買シグナル：)



先週は買いシグナルが点灯した。ブレークアウトなし。

7月4日週 167.73 より弱気中だったが 11月7日週 124.97 にて強気転換。

先週のユーロ円週足には 4ヶ月ぶりに買いシグナルが点灯。

7月4日週 167.73 にて開始したショートポジションを 124.97 にて反転させた。

実に 42.76 円というテクニヘッジ・レポート執筆開始以来恐らく最大のショート益を計上した。

殆ど全てのクロス円（ドル円も含む）に先週中期買いシグナルが点灯した。

またクロス円とほぼ完璧に連動する主要国株式指数にも中期買いシグナルが点灯した。

とは言え直ちに力強い反騰と言うわけには行かず、やはり基調は大乱高下だろう。

今週の売りストップは 118.65。(買いストップは 131.28)

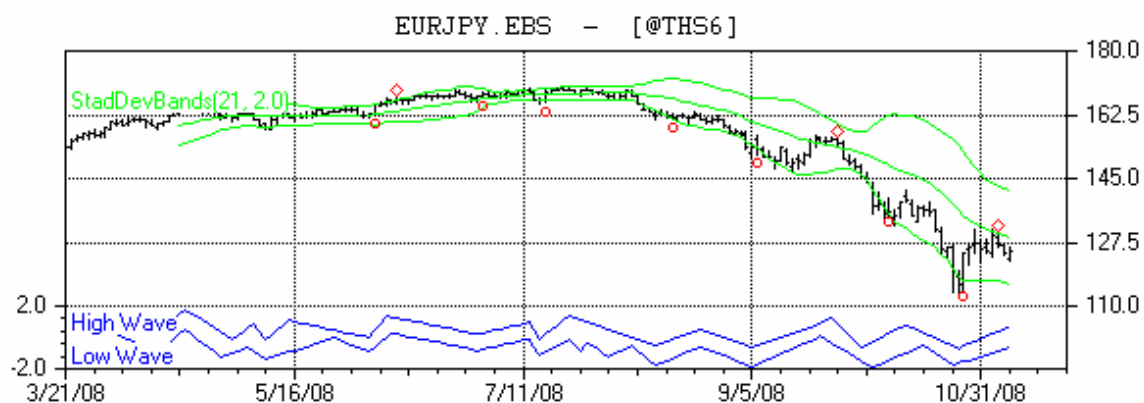
標準予想レンジは 120.24 ~ 127.01。

陽線予想レンジは 123.72 ~ 130.50。

陰線予想レンジは 119.43 ~ 126.21。

ユーロ円・短期予想：短期弱気中。

(下図ユーロ円短期日足売買シグナル：)



11月5日126.87売りシグナルより弱気中。

ユーロ円は水曜日に売りシグナル点灯して短期弱気中。

しかしながら先週の週足には中期買いシグナルが点灯した。

短期弱気、中期強気の二重構造に挟まれて、今週も新規安値の更新は無く、大型の調整揉み合いとなる見込みである。

ボラティリティーは恐らく低下するだろう。

今週のレンジは120円から130円の範囲内に納まると推測。

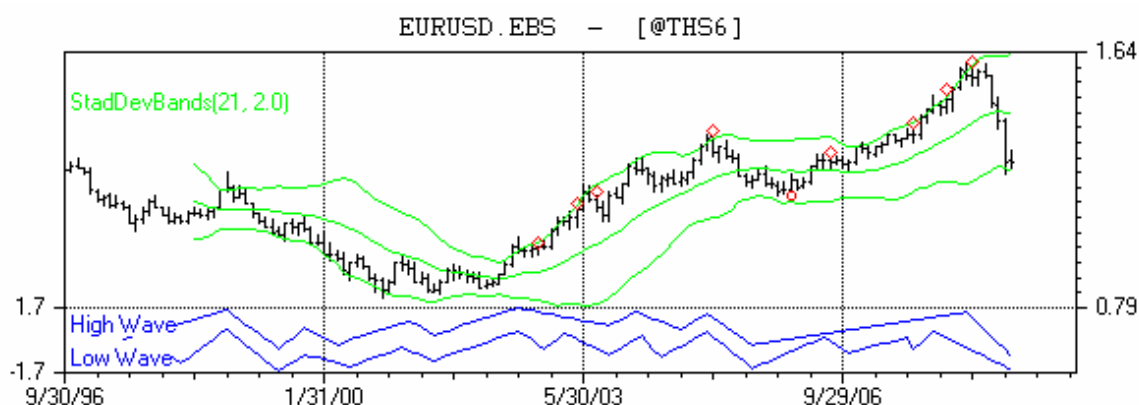
しかし時折、大型の実体経済の破綻を示すニュースに直撃されてショック下落に見舞われ、本格的な長期反転は暫く無理だろう。

ユーロドル: 1.2720 (1.2732) 先週末 NY 為替市場終値

[概観]: 先週の週足に中期買いシグナル点灯。中期的調整局面に入る見込み。

ユーロドル・長期予想: 長期弱気中。

(下図ユーロドル長期月足売買シグナル:)



10月はシグナル点灯なし。大幅の売りブレイクアウト 1.3280 にて発生し弱気を再確認。2008年5月 1.5554 より長期弱気中。

ユーロドル 10月足は現代史上最大級の下落に見舞われた。

仮想データを含む過去 29年間で最大の暴落となった。

次の節目は半返し点である 1.22。その先が第二黄金分割点 1.13 である。

この節目のいずれかで大底形成の兆しが見えてくるとの見通しである。

大底パターンが感知されるまで早くても 3ヶ月程度は掛かるだろう。

2008年5月 1.5554 より長期弱気中。先週の引値は 1.2720 だった。

11月の買いストップは 1.4247。(売りストップは 1.1217)

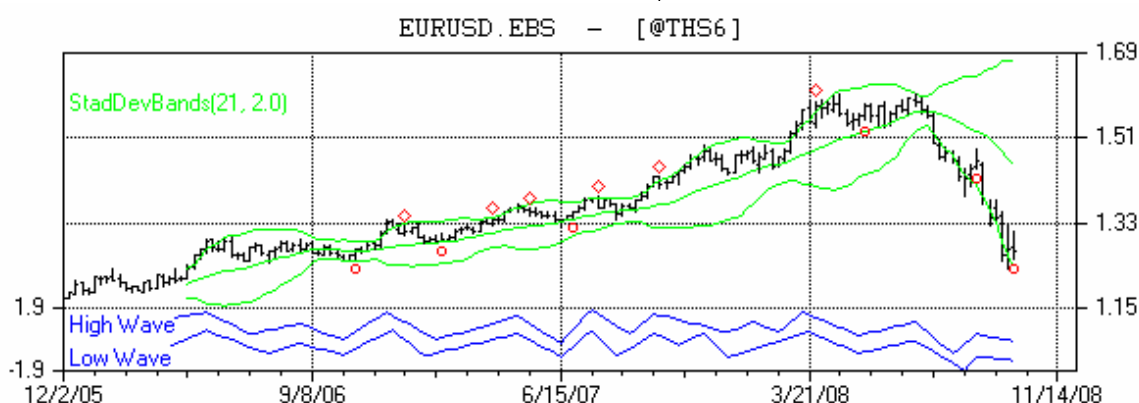
標準予想レンジは 1.2405 ~ 1.2968。

陽線予想レンジは 1.2606 ~ 1.3169。

陰線予想レンジは 1.2295 ~ 1.2858。

ユーロドル・中期予想: 中期買いシグナル点灯。

(下図ユーロドル中期週足売買シグナル:)



先週は買いシグナル点灯した。ブレイクアウトなし。
10月3日週1.4348より弱気中だったが11月7日週1.2720にて強気転換。

先週のユーロドル週足は3週間連続で1.27近辺にて引けており、予想通り下げ止まり感が強まった。それを裏付けるように先週は孕み足。また中期買いシグナルも点灯した。
10月3日週1.4348にて再開したショートを一時的に1.2720にてロング転換した。

16.28セントの記録的なショート収益を計上した。

殆ど全ての主要ドルペアで中期買いシグナル点灯した (= ドル売りシグナル)。

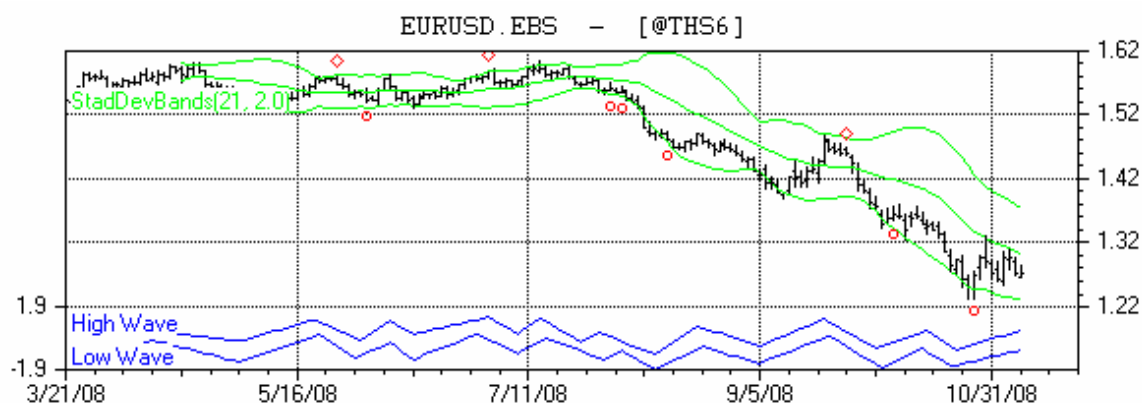
この際は買戻し基調の乱高下調整。
そして調整完了後には新規安値更新の長期傾向が浮上すると見込む。

今週の売りストップは1.2303。(買いストップは1.3137)

標準予想レンジは1.2441 ~ 1.2888。
陽線予想レンジは1.2633 ~ 1.3080。
陰線予想レンジは1.2360 ~ 1.2807。

ユーロドル・短期予想：短期強気転換。

(下図ユーロドル短期日足売買シグナル：)



10月28日1.2685より強気中。

昨日のユーロドルは僅か2セントの僅少レンジで前日比変わらず終了した。

週足も3週間ぶりにレンジが縮小し、こちらも前週比変わらず、十字足で終了した。
週足には中期買いシグナル点灯。

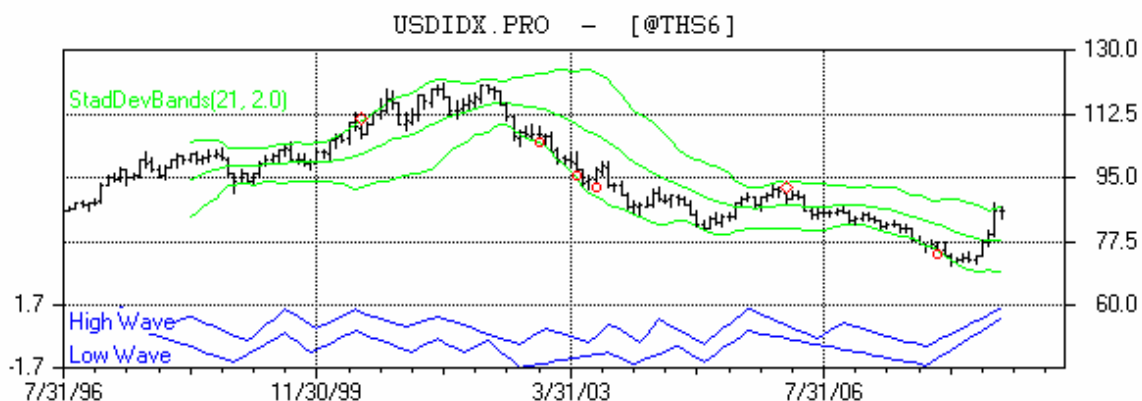
中期的な下げ止まり感が今後も強まるとの認識である。

しかしながら長期大底をつけるのは、もう一度安値更新した後であるとの見通しが強く、その水準としては至近候補が1.23近辺、その次の候補が1.13近辺と見做している。

ドル・インデックス: **85.907 (85.633)** 先週末 NY 為替市場終値

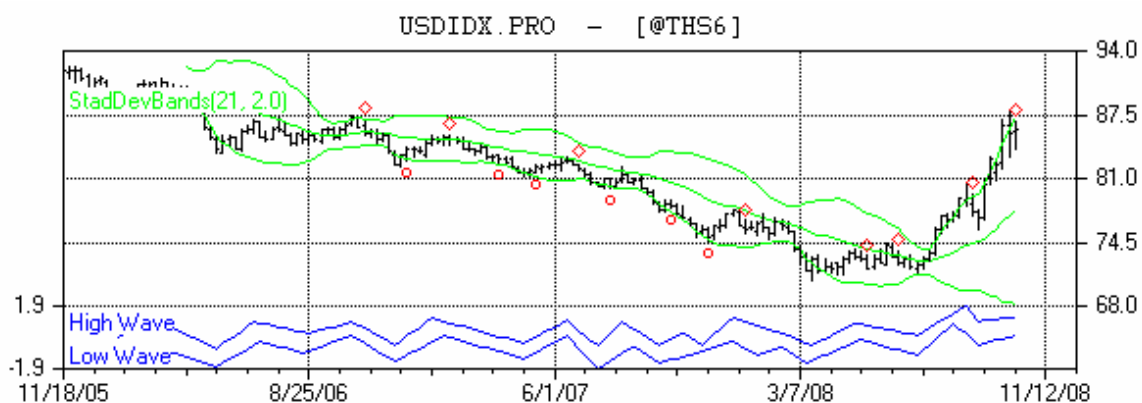
ドル・インデックス: 中期売りシグナル点灯。

(下図ドル・インデックス月足売買シグナル)

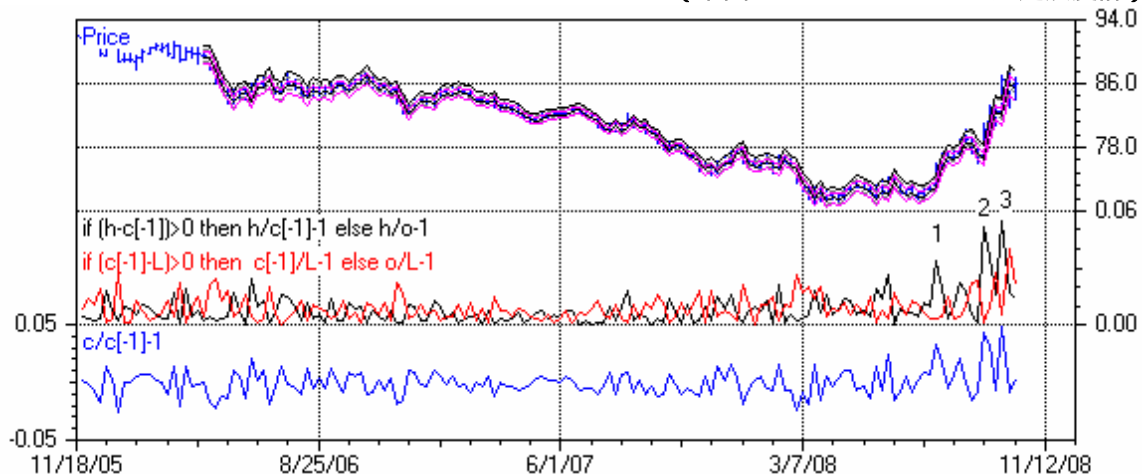


先週のドル・インデックス週足(下図)には中期売りシグナルが点灯した。8月以来週足には記録的な超大陽線が3度出現しており(8月8日週、10月3日週、10月24日週)既に三段上げを終了したと見る(下図震度計に表示)。但し、これほどの大相場と言うのは四段までであることが多く、その場合は、恐らく来年の1月から2月にかけて、小幅高値更新があり、90近辺で大天井をつけるのではないかと推測する。

(下図ドル・インデックス週足売買シグナル)



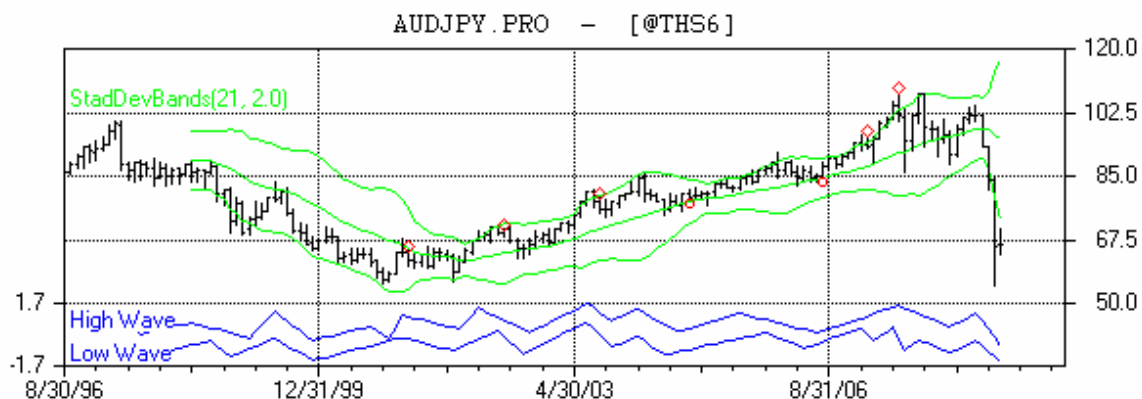
(下図ドル・インデックス週足震度計)



豪ドル円: 66.21 (65.77) 先週末 NY 為替市場終値

豪ドル円: 長期弱気中・中期買いシグナル点灯。

(下図豪州ドル/円長期月足売買シグナル)



2007年7月101.46円長期売りシグナルより長期弱気中(上図)。中期週足は7月4日週102.89より弱気中だったが先週11月7日週66.21にて強気転換(下図)。

豪ドル円の10月足は現代史上最大の下落幅と率で暴落した。しかしこれ程の大暴落が長続きするわけは無く先週は週足に中期買いシグナルが点灯した。暫く下げ止まるとの見通しである。

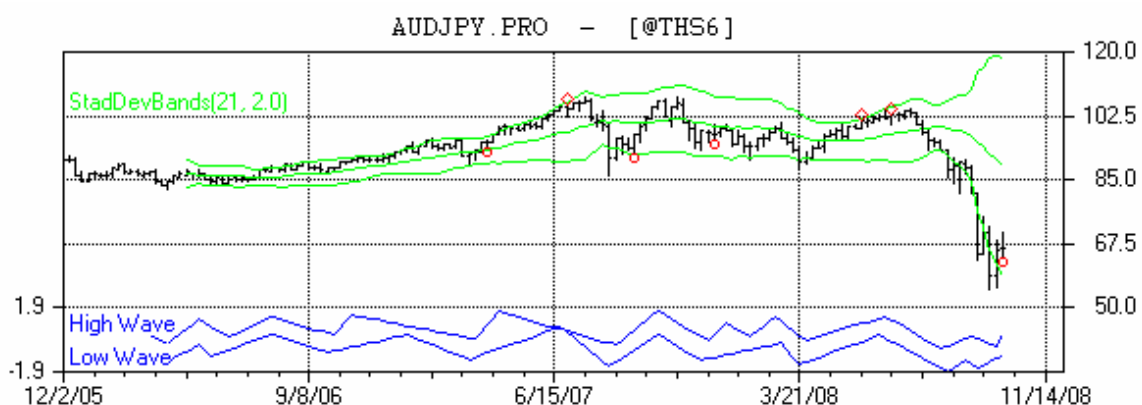
これにより中期週足は7月4日週102.89円で始まったショートと66.21円にてロングに転じた。

実にレポート創刊以来の新記録36.68円のショート幅である。

ここが長期底となるかどうかはチャートが破壊的な様相を示している為に予想困難であるが、テクニヘッジの長期買いシグナル点灯まではまだ少なくとも数ヶ月は掛かる見込み。

今週の売りストップは61.70。(買いストップは70.74)。

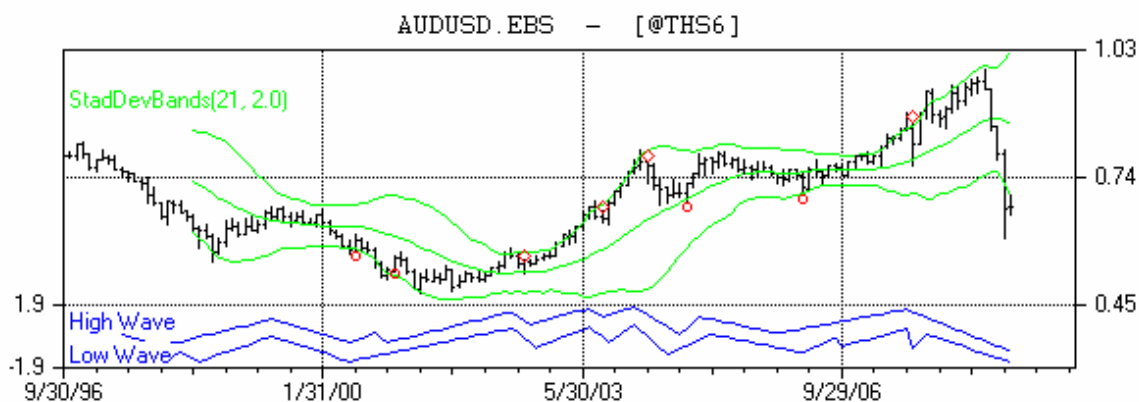
(下図豪州ドル/円中期週足売買シグナル:)



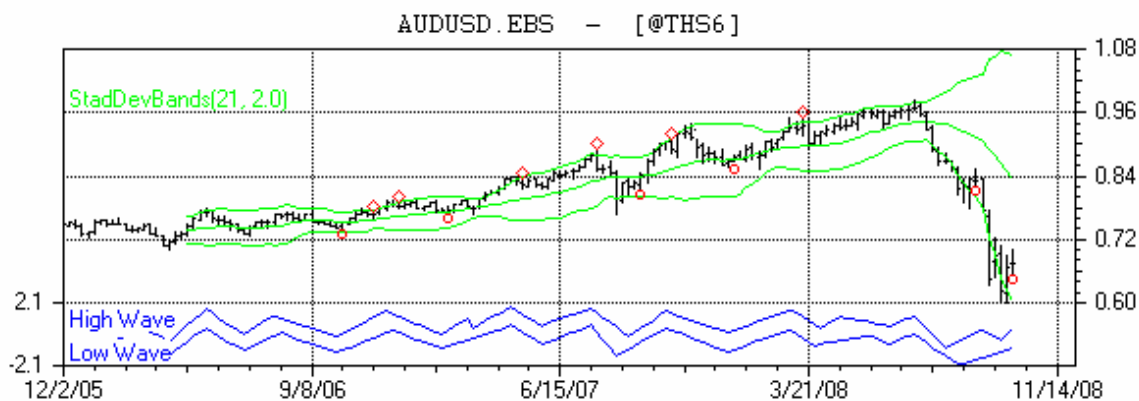
豪ドル/米ドル: 0.6745 (0.6675) 先週末 NY 為替市場終値

豪ドル/米ドル予想: 長期弱気中。中期買いシグナル点灯。

(下図豪ドル米ドル長期月足売買シグナル:)



(下図豪ドル米ドル中期週足売買シグナル:)



豪ドル米ドルにも先週中期買いシグナルが点灯した。10月3日週 0.7853 から開始した中期ショートは先週 0.6745 にてロング転換した。既に中期調整入りしているのは明らかなようだが、ますます下げ止まったという認識が強まることになる。長期的には、もう一段の新規安値更新は有ると見込む。この先の長期節目は 0.58 ドル。

今週の売りストップは 0.6461。(買いストップは 0.7028)

標準予想レンジは 0.6443 ~ 0.6902。

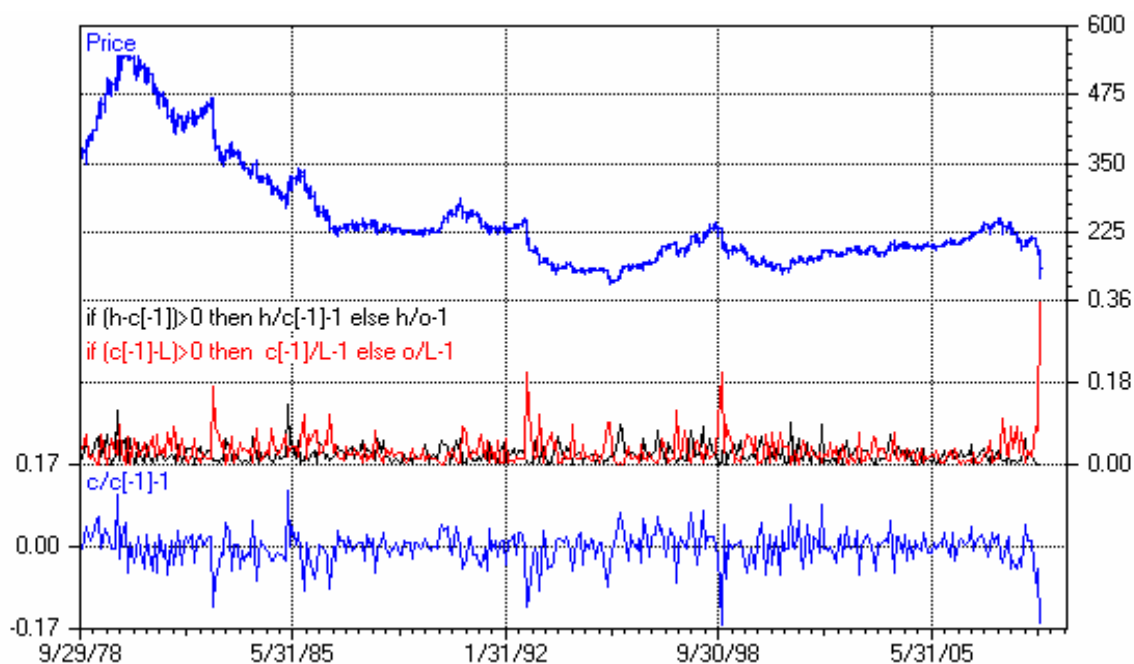
陽線予想レンジは 0.6666 ~ 0.7125。

陰線予想レンジは 0.6365 ~ 0.6824。

ポンド円: 153.66 (158.22) 先週末 NY 為替市場終値

ポンド円: 長期弱気中、中期買いシグナル点灯。

(下図ポンド円長期月足震度計 :)



(上図解説 : 上部青色 = ポンド円。中部赤色 = 下落震度、黒色 = 上昇震度。下部青色 = 変動率。)

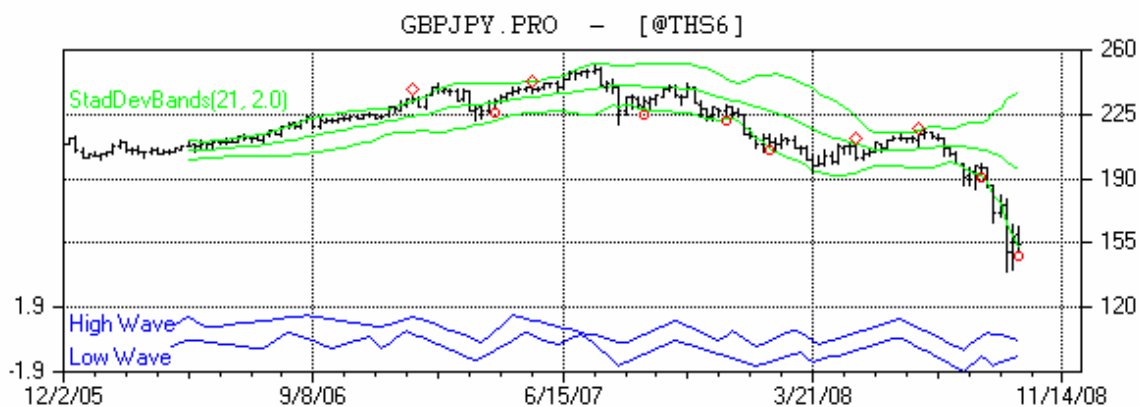
ポンド円 10 月足は 78 年以降の現代史上最大の下落率で暴落し、最安値圏に到達した。(上図参照)。しかし週足には先週中期買いシグナルが 153.66 円にて点灯 (下図参照)。

10 月 3 日週に 185.13 円にて再開したショートをロングに転換した。
31.47 円のショート益だった。

上記チャートでは 1995 年の最安値が 128 円台となっている。先月の最安値は 139 円台だった。上記チャートの歴史的サポート水準に到達しており、ここ数ヶ月は 120 円から 140 円の間で下げ止まろうとする、との見通しである。

今週の売りストップは 141.40。(買いストップは 166.09)

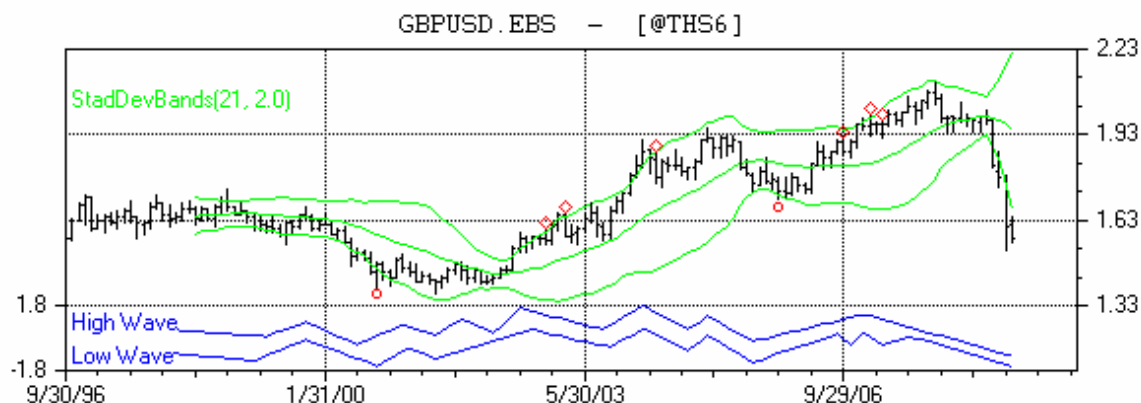
(下図ポンド円週足売買シグナル :)



ポンド米ドル: **1.5641 (1.6075)** 先週末 NY 為替市場終値

ポンド米ドル: 中期買いシグナル点灯。

(下図ポンドドル長期月足売買シグナル:)



長期弱気中(上図)。中期買いシグナルが先週点灯し、10月3日週に1.7841で始めたショートを買って1.5641にてロング転換した(下図)。中期的調整となる見通しである。

1.5260近辺には95年2月大底から2001年6月大底を經由して走る超長期トレンドラインが走っている。先週はかなり接近しており、今週は注目。これを下破ると次の節目は1.425近辺。

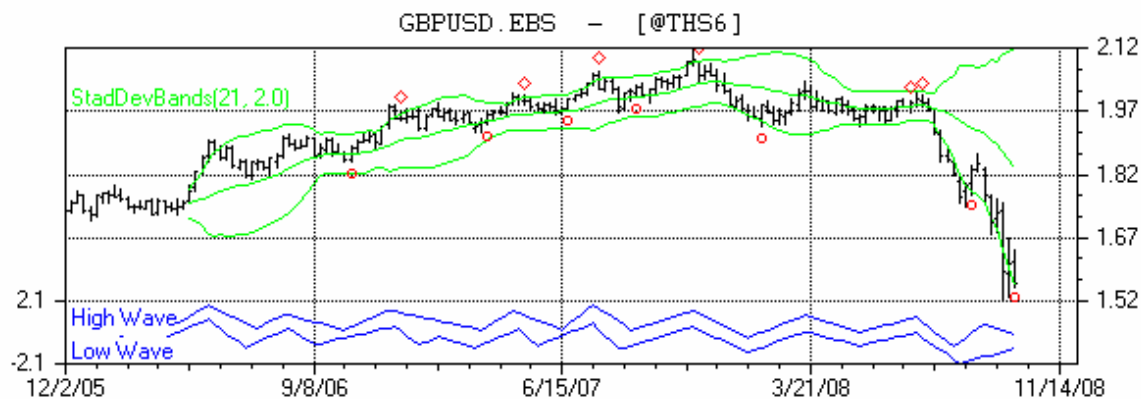
今週の売りストップは1.5238。(買いストップは1.6438)

標準予想レンジは1.5222~1.5830

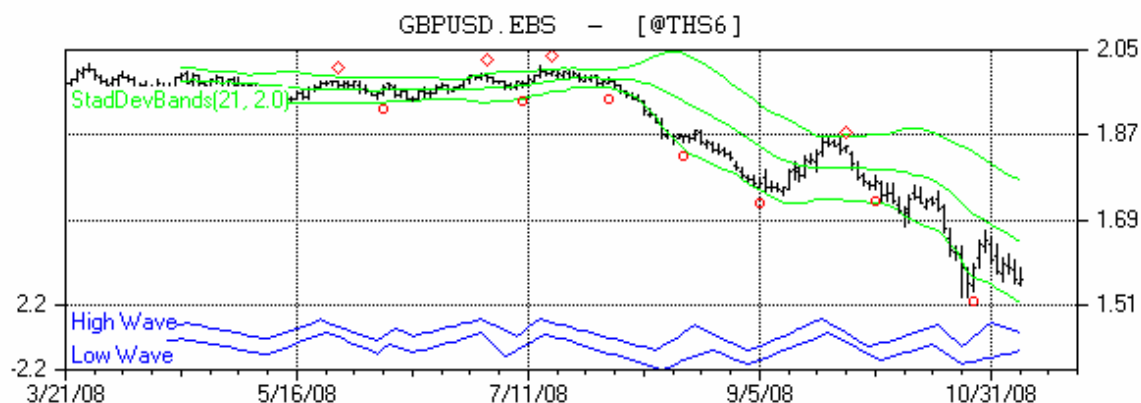
陽線予想レンジは1.5513~1.6122

陰線予想レンジは1.5160~1.5769。

(下図ポンドドル中期週足売買シグナル:)



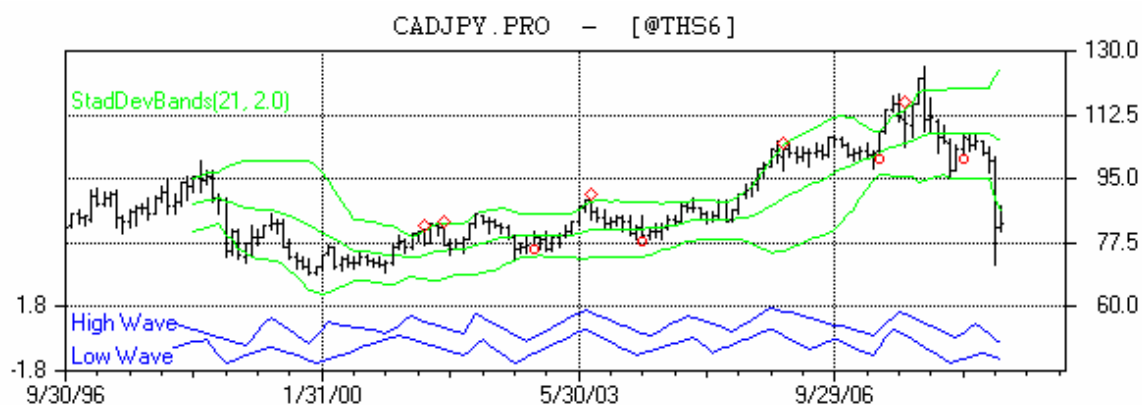
(下図ポンドドル短期日足売買シグナル:)



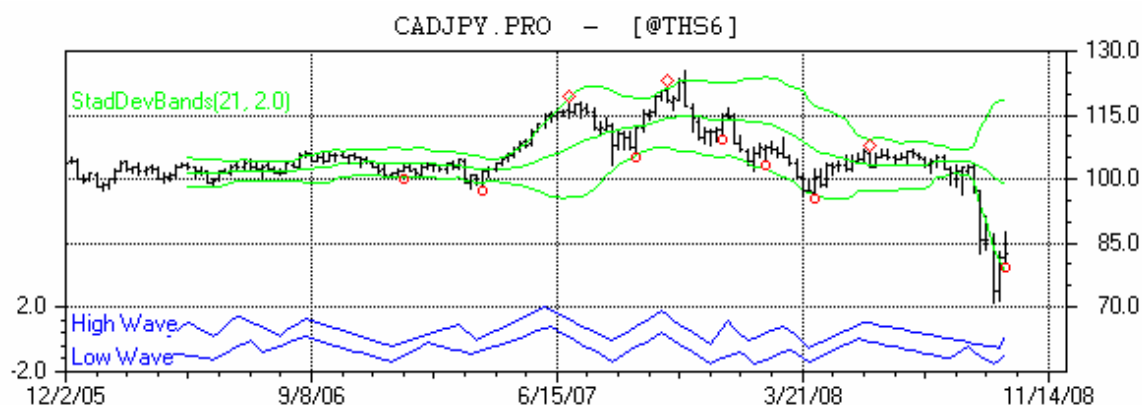
カナダ円: **82.60 (81.23)** 先週末 NY 為替市場終値

カナダ円: 中期買いシグナル点灯。

(下図カナダ円長期月足売買シグナル)



(下図カナダ円中期週足売買シグナル)

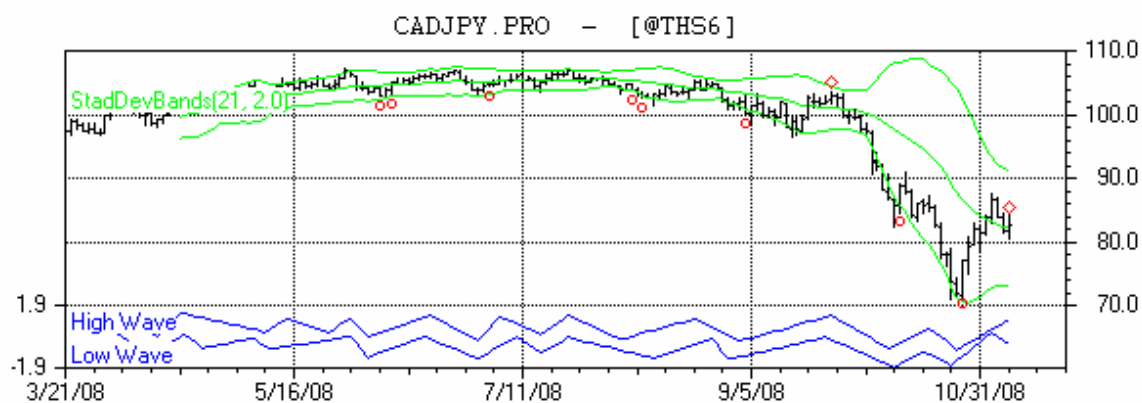


2008年8月102.60より長期弱気中。2008年6月6日週103.99より中期弱気中。

カナダ円にも週足に中期買いシグナルが点灯した(上図)。6月6日103.99円で開始したショート
を82.60にてロング転換した。水準的には恐らく大底圏には接近中との見通しであるが、カナダ円
は大底を推測するヒントが少なく、大底認識にはまだ半年程度の時間を要すると見込む。

今週の売りストップは77.42。(買いストップは87.76)

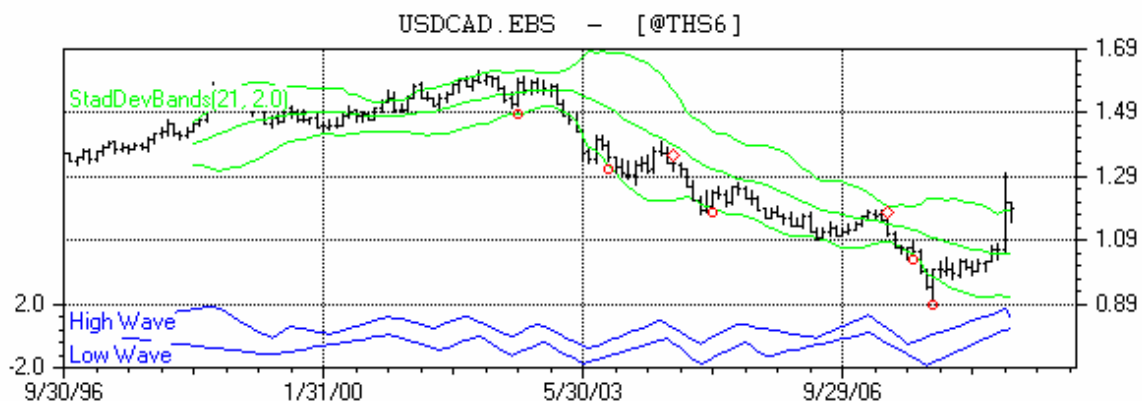
(下図カナダ円短期日足売買シグナル)



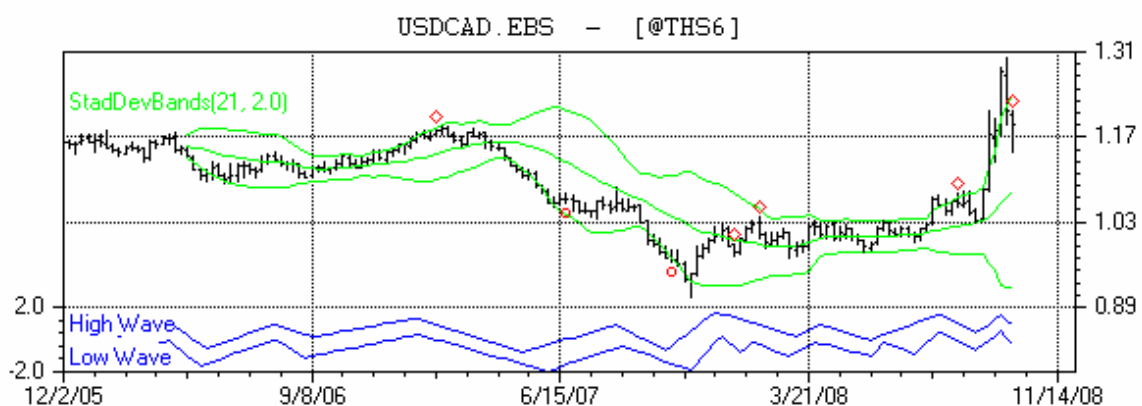
米ドルカナダドル: 1.1889 (1.2120) 先週末 NY 為替市場終値

米ドルカナダドル: 中期売りシグナル点灯。

(下図米ドルカナダドル長期月足売買シグナル)



(下図米ドルカナダドル中期週足売買シグナル:)



ドルカナダは先週の週足に中期売りシグナルが点灯（下図）。中期天井を付けたとの認識である。ところが日足には買いシグナルが点灯（下図）。こちらも納得の行く日足となっている。暫くは二重構造に挟まれて大乱高下。時間とともに中期シグナルが優勢となる見込みである。

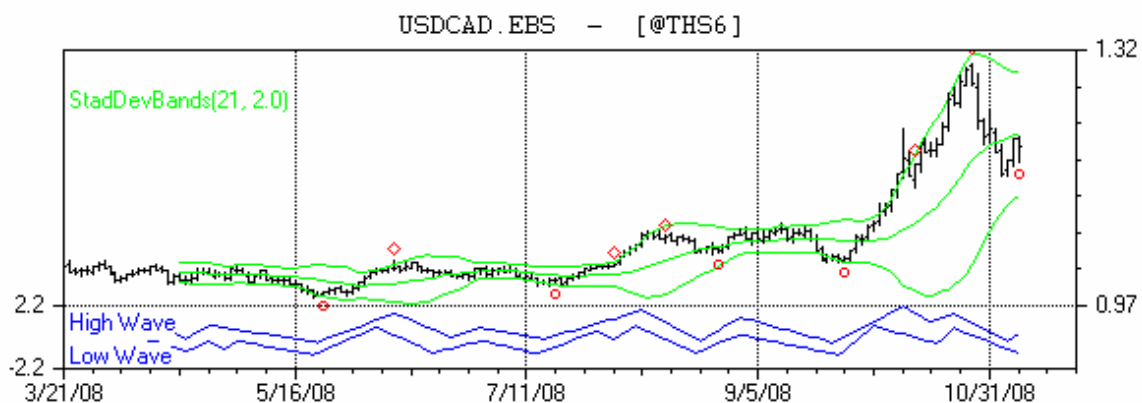
今週の買いストップは 1.2336。(売りストップは 1.1444)

標準予想レンジは 1.1705 ~ 1.2171。

陽線予想レンジは 1.1807 ~ 1.2274。

陰線予想レンジは 1.1506 ~ 1.1973。

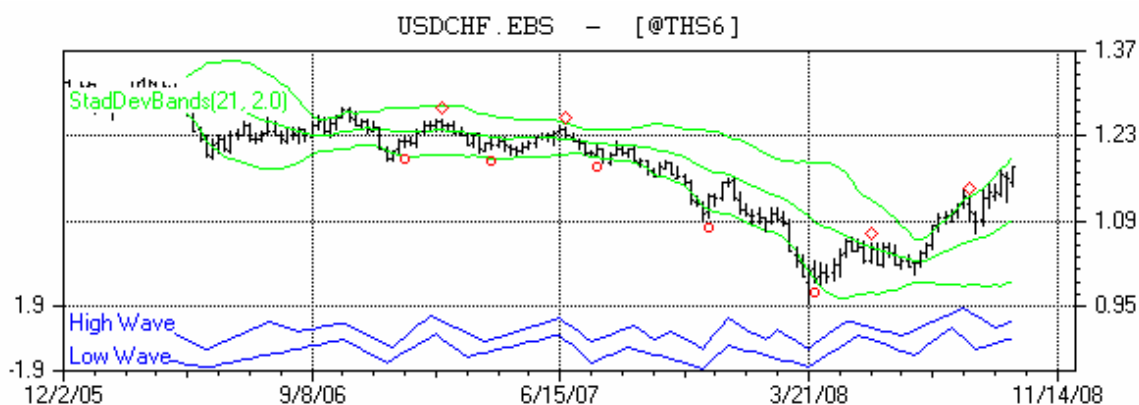
(下図米ドルカナダドル短期日足売買シグナル:)



ドルスイス: 1.1783 (1.1585) 先週末 NY 為替市場終値

ドルスイス: 長期強気中。中期強気中。

(下図ドルスイス中期週足売買シグナル:)



ドルスイスは先週シグナル点灯が無かった。ほぼ全通貨ペアに中期シグナルが点灯したのだから、これは異様だった。それだけでなく、ドルスイスは微妙に他の主要通貨ペアとの相関が弱まっている。ボラティリティーも唯一正常に近い水準であり、従って全てが異常な現況では異端である。ユーロポンドと並んで奇妙な印象を与える。

今週の売りストップは 1.1460。(買いストップは 1.2106)

標準予想レンジは 1.1624 ~ 1.1972。

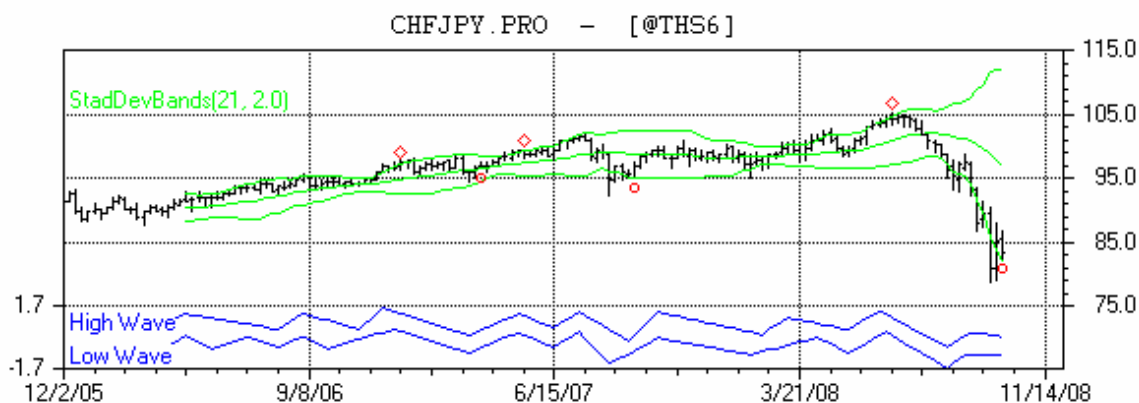
陽線予想レンジは 1.1693 ~ 1.2041。

陰線予想レンジは 1.1525 ~ 1.1873。

スイス円: 83.35 (85.158) 先週末 NY 為替市場終値

スイス円予想: 長期弱気中・中期買いシグナル点灯。

(下図スイス円中期週足売買シグナル:)



スイス円は 2008 年 8 月 99.91 より長期弱気中。7 月 4 日週 104.18 円売りシグナルより中期弱気中だったが先週 11 月 7 日週 83.35 にて中期強気に転換。

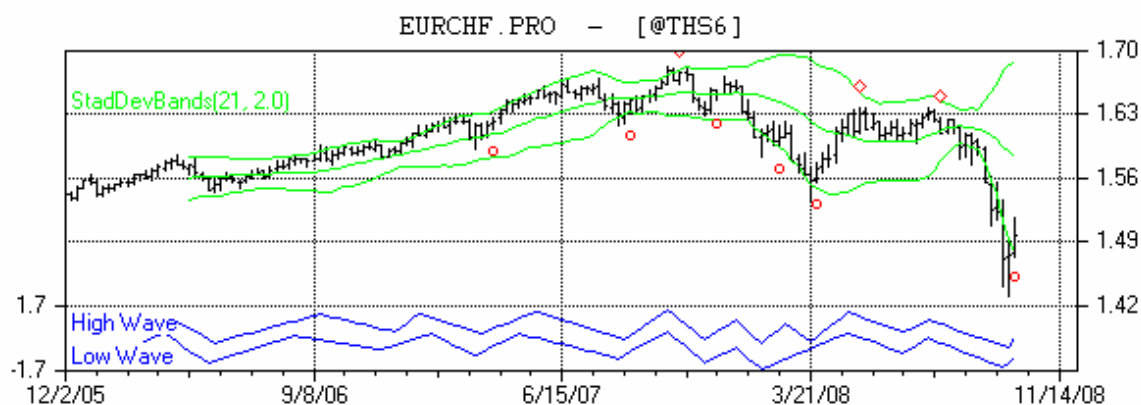
スイス円週足にも先週中期買いシグナルが点灯した。天井最高値週である 7 月 4 日週 104.18 円で始まった中期ショートも 83.35 円にて中期ロングに転じた。

長期月足は弱気中である。恐らくもう一度安値を更新して、76 円前後で長期大底を一先ず形成するとの見込みである。

ユーロスイス: 1.4895 (1.4710) 先週末 NY 為替市場終値

ユーロスイス予想: 中期買いシグナル点灯。

(下図ユーロスイス中期週足売買シグナル:)

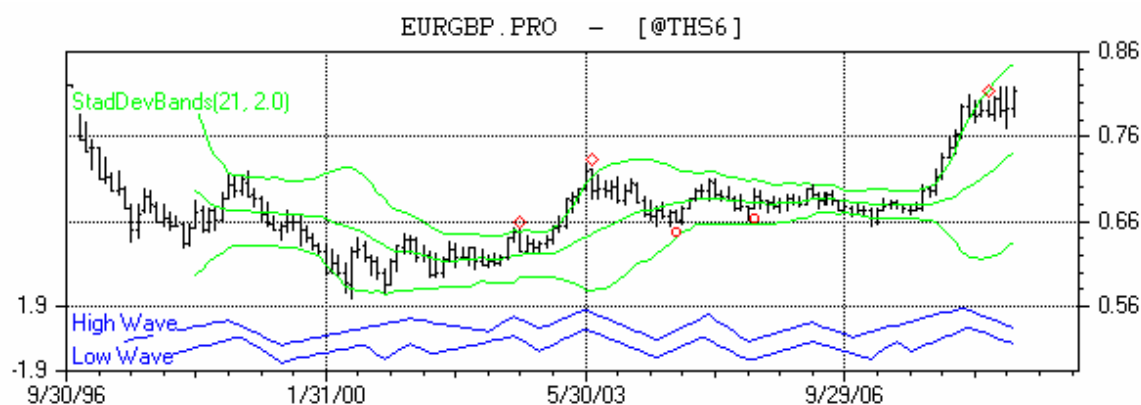


ユーロスイスはドルペアやクロス円と相関しているという認識は無かったが、中期売買シグナルの点灯タイミングは、先週完全に一致した。これは周期性と言うよりはボラティリティーが全金融市場で現在完全に相関している為だろう。週足に中期買いシグナル点灯。

ユーロポンド: 0.8126 (0.7914) 先週末 NY 為替市場終値

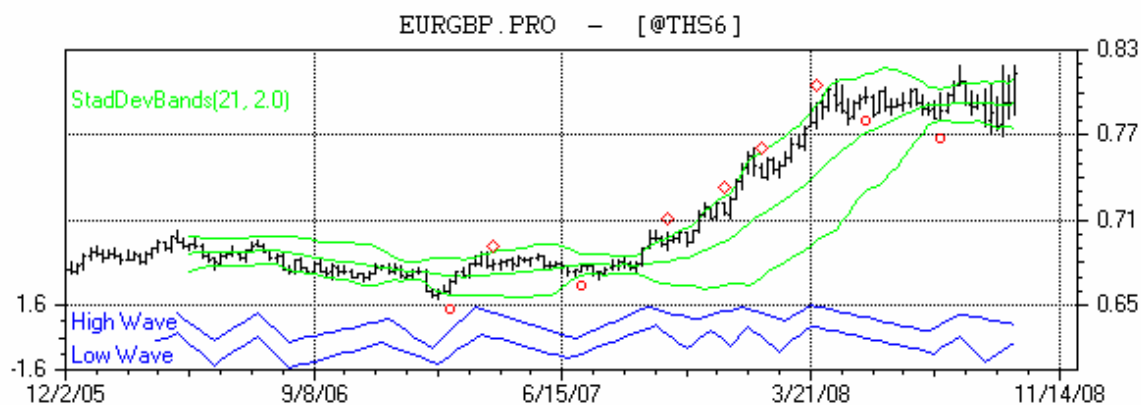
ユーロポンド: 中期横ばい中。

(下図ユーロポンド長期月足売買シグナル:)



ユーロポンドは主要通貨ペア中唯一、中長期横ばいボックスを維持する。ボラティリティーの増加だけが金融市場と相関している。しかし先週は週足引値が導入後最高値で引けた。小幅の高値ブレイクアウトがあるかどうか注目したい。

(下図ユーロポンド中期週足売買シグナル:)



外国為替予想・分析テクニヘッジ・レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものです。売買の最終決定は、読者ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、テクニヘッジ・レポートのいかなる部分も一切の権利は TANAKA CRM社に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で引用、複製または転送などを行うことを法律にて禁じられています。

Tanaka CRM, v.o.f., The Netherlands
Currency Risk Management